

九州厚生年金会館の機能存続を求める市民運動 実行委員会趣意書

政府は、厚生年金会館など全国に300余りある年金福祉施設を譲渡・廃止するため、2005年10月1日に、独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構を設立しました。同機構は、今後、5年以内にこれらすべての施設を譲渡・廃止、売却益を国の特別会計に繰り入れることとし、北九州市にある九州厚生年金会館も2008年9月をもって廃止・売却が予想されております。

九州厚生年金会館は、1984年の開館以来、社会環境の変化等に対応しながら、北九州市のみならず北部九州・山口地区の文化・芸術の発展や地域社会の活性化に大きく貢献してきた貴重な文化施設とも言えます。特に、ホールに関しては、日本の伝統芸能や一流アーティストのコンサートなどが数多く催されてきました。

北九州市内最大の客席数（2200席）を有する同ホールにはドイツの老舗ワルカー社製のパイプオルガンがあり、開館時の23年前は「文化不毛の地」と揶揄された北九州市において「音楽を愛する文化を育てよう」と市民、企業、自治体が一体となって取り組んだ募金活動により2億円をかけて設置したという経緯があります。

また、建築物としての評価も高く、第27回建築業協会賞（BCS賞）を受賞しています。このホールが消滅することになれば、市内最大級の文化ホールを失うだけでなく、先人たちの思いにより受け継がれてきた北九州市の文化発信等に大きな影響が及ぶことも懸念されています。

そこで、私どもは皆様とともに、かけがえのない財産といえる九州厚生年金会館の存続を求める為に、その必要性を関係諸機関に向けて発信し、強い意志として市民運動へと高めていかなければなりません。

上記につき、貴団体におかれましては、その必要性を深くご理解いただき、実行委員会設立にあたってのご協力・ご参加を賜りますようお願い申し上げます。

【本実行委員会の目的】

- ・30万人を目標とした署名運動を行い、これを陳情書とともに関係諸機関に提出する。

九州厚生年金会館の機能存続を求める市民運動実行委員会

実行委員会役員 重淵 雅敏 今村文二 小嶋一碩
住田 精宏 瀬尾洋二 田中 覚
田中丸善昌 利島康司 芳賀晟壽
若松 通 中柴 崇